

通し番号	3996
------	------

分類番号	15-33-13-06
------	-------------

(成果情報名) 防除作業に伴う農薬飛散・騒音トラブルと生産者の対応
[要約] ナシ現地研究会に参加した104名の生産者にアンケート調査したところ、68%は果樹園が住宅地や駐車場と隣接し、81%が防除作業にスピードスプレーを使用していた。周辺住民からは農薬飛散、騒音等の苦情が寄せられており、生産者は防除時間帯の特定、減農薬栽培、事前連絡等の対応をしている。防除時間帯は早朝5時、6時台が多くなっている。
(実施機関・部名) 神奈川県農業総合研究所 生産技術部 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

果樹園周辺の都市化が進行する中で、営農を継続するには周辺住民の理解を得ながら共存していくことが必要であるが、防除作業における農薬飛散・騒音はトラブルの原因となっている。ここでは、防除作業の現状と問題点を周辺住民との関係という視点で把握し、今後の研究方向を探るため生産者アンケートを実施する。

[成果の内容・特徴]

- 1 果樹園隣接地の状況は、住宅地、駐車場など都市的施設と隣接している園（以下、「住宅・駐車場隣接園」と記載）が、68%と多く、畑地等との隣接園は31%であった（図1）。住宅・駐車場隣接園でも、主な防除手段は81%がスピードスプレーであった（図2）。
- 2 防除の際、周辺住民に何らかの配慮をしている生産者は、住宅・駐車場隣接園では100%、畑地等隣接園でも75%であった（図3）。
- 3 住宅・駐車場隣接園では42%の生産者が防除に関係する苦情を受けており（図4）、苦情の内容は大きく分けて 騒音に関する苦情（早朝からうるさい・スピードスプレーの音がうるさい等） 農薬の園外飛散に関する苦情（風向きで農薬が飛んできた・洗濯物にかかった・歩行中にかかった・走行中の自動車にかかった等）であった。
- 4 生産者が行っているトラブル回避の方法は、防除時間帯の特定が最も多く、以下、減農薬栽培の実施、防除の事前連絡、防薬ネットの設置などであるが、住宅・駐車場隣接園では、事前連絡の割合が大きい傾向であった（図5）。
- 5 防除時間帯は早朝の5時、6時台が多く、特に住宅・駐車場隣接園では早朝と夜など、都市住民の活動時間中を避ける傾向が強かった（図6）。
- 6 試験研究機関に求めることは、低騒音の防除法・機械の開発 少飛散の防除法、防薬ネットより飛散防止効果の高い資材の検討 減農薬栽培技術の確立、などとなっている。

[成果の活用面・留意点]

- 1 都市化した地域での果樹園防除の実態と周辺住民とのトラブル、トラブルを回避するための生産者の対応が明らかになった。
- 2 生産者だけの対応には限界があり、関係機関一体となった対応が必要である。

[具体的データ]

4 主要なデータ

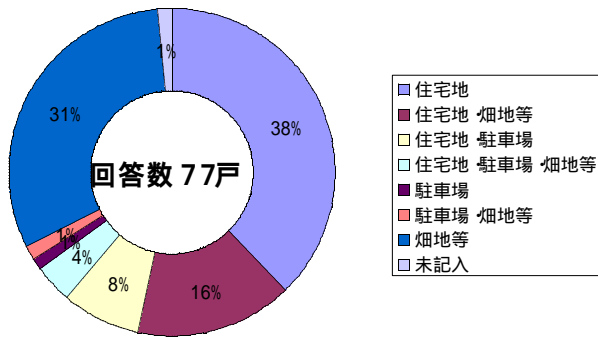


図1 果樹園隣接地の状況

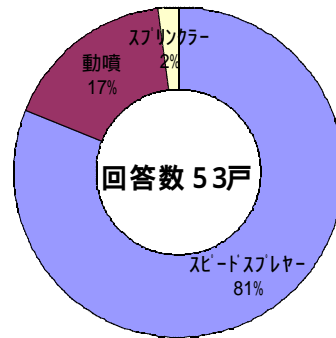


図2 住宅地・駐車場隣接果樹園の防除手段

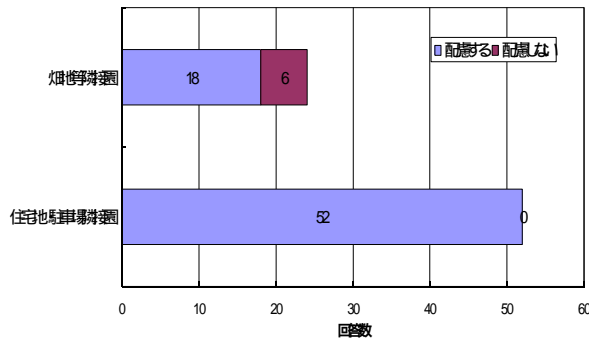


図3 防除作業における周辺住民への配慮(園地条件別)

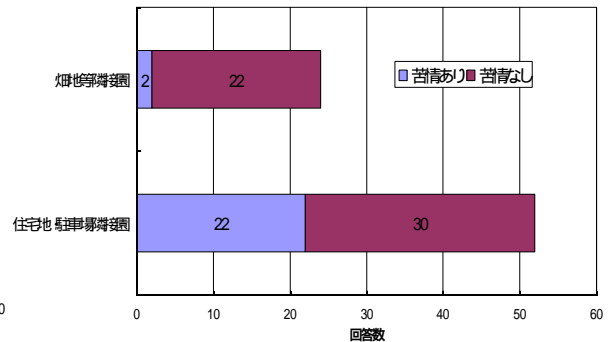


図4 防除作業に伴う住民からの苦情(園地条件別)

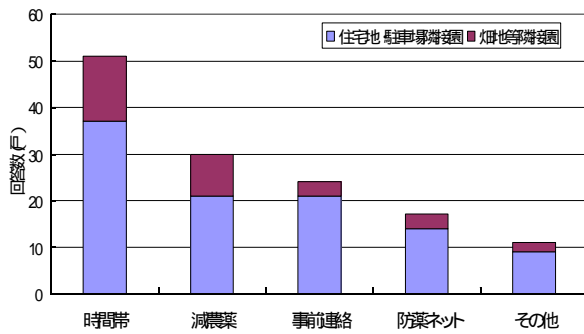


図5 周辺住民との摩擦回避の方法

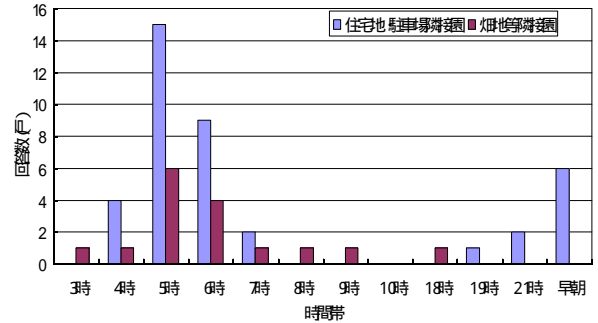


図6 防除作業を行う時間帯

[資料名] 平成15年度試験研究成績書(果樹)

[研究課題名] 防除作業における農薬飛散、騒音トラブル実態調査

[研究期間] 平成15年度

[研究者担当名] 北尾一郎・川嶋幸喜・柴田健一郎